

日本における「再生産活動のグローバル化」の現状

－ジェンダーの視点から見た日本における移民女性の社会的統合－

国立社会保障・人口問題研究所

是川 夕

1. 問題の所在

日本以外の先進各国では、女性の社会進出と移民女性によるケア役割の代替の間には密接な関係があることが指摘されてきた。日本における 1990 年代以降の外国人人口の急増過程も、世界的潮流といえる国際移民に占める女性の割合が上昇する「移民の女性化」を伴ってきた。しかし、移民女性の増加が日本社会のジェンダー関係をどのように変化させるのかという視点に基づく研究はほとんど行われてこなかった。近年、日本でも外国人家事労働者が一部の特区で許可されるなど、「再生産活動のグローバル化」(Sassen1988)に該当する現象が見られる中、すでに日本に暮らす移民女性の社会的統合の状況をジェンダーの視点から明らかにすることで、こうした点について明らかにする必要があるといえよう。

2. 本研究の命題、及び方法

本研究では以上の問題意識に基づき、外国人女性の階層的地位は、外国人であることと女性であることにより、日本人女性よりも低くなるという「二重の障害」モデル (Boyd 1984) の検証を通じて、日本における外国人女性の階層的地位についてジェンダーとエスニシティの双方の観点から分析を行い、移民女性が日本の既存のジェンダー関係の中でどのように位置づけられているのかを明らかにした。

なお、分析に当たっては、平成 22 年に実施された国勢調査の個票データを利用するとともに、日本での人口規模が大きく 1990 年代以降急増したニューカマー外国人の移住過程を代表する中国人、フィリピン人及びブラジル人女性を対象に分析を行った。

3. 結論

その結果、「二重の障害」モデルは日本の経験には部分的にしか妥当しないことが示された。なぜなら外国人女性と日本人女性の階層的地位の差を生んでいたものは、もっぱら本人及び配偶者の学歴が低いことや、有配偶者や未就学児を育てる外国人女性の間で労働参加率が低いことに限られ、労働市場における低い skill transferability や、職業的地位が低く「女性的」な仕事に就くことが多いといった「二重の障害」モデルから予測される現象の多くが確認されなかったからである。むしろ、外国人女性は日本の労働市場に固有のジェンダー化された構造から「排除」されることで、かえってその職業的地位を高いものにする可能性すら見られた。こうした「排除」の構造が維持されるのかどうか、今後の外国人女性の階層的地位、ひいては日本のジェンダー関係全般の変動を予測する上で重要であるといえる。

Boyd, M., 1984, "At a Disadvantage: The Occupational Attainments of Foreign Born Women in Canada," *International Migration Review*: p.1091-119.

是川夕, 2018, 「ジェンダーの視点から見た日本における国際移民の社会的統合」『IPSS Working Paper』 17: pp.1-45.

Sassen, S., 1988, *The Mobility of Labor and Capital: A Study in International Investment and Labor Flow*. Cambridge University Press.